

令和2年度 男女共同参画地域フォローアップ事業

この事業は、令和元年度に実施した「男女共同参画地域づくり講座」を踏まえ、地域におけるさらなる男女共同参画意識の定着を図り、継続的に男女共同参画活動の実現サポートするため実施しています。

第三地区の皆さんには、引き続き「地域防災活動」において、男女共同参画の実践がどのように進んでいるか？という視点で、“前年度から取り組んだこと・これから取り組んでいきたいこと”を令和元年度に引き続き、静岡県立大学 国際関係学部 犬塚協太教授とともに全2回講座にてアドバイスをいただきました。

第1回目では、令和元年度の最終講座にて宿題としていた「来年度への取組目標」をもとに、各地区がどのような活動を行ったかの振り返りを行いました。コロナ禍ということもあり、思うように活動ができなかった地区が多く、「男女共同参画の視点を入れた防災」の引継ぎが地域できていない。という新たな課題もみつけられました。



第2回目はコロナ禍の都合もあり書面開催でした。新たな課題と新たな目標について、各地区の2か月間の取組の発表と、それに対する先生からのアドバイスが行われました。地域活動が難しい中、先進地区の防災マニュアルを勉強したり、自分たちの現マニュアルを見直したり、回覧板を利用したり、引継ぎ方法を見直したりと、地区の前向きな取り組みがみられました。

川崎市の防災マニュアルは男女の視点が参考になる！

犬塚教授のコメント



2年間の課題の取り上げや実践を通して「男女共同参画の意義とその取組の重要性」への理解が進んだのではないのでしょうか。それぞれの自治会が課題に対して取り組み、男女多様な意見を取り入れて避難所の備品を買い足すなど、実践的な効果も出ていますし、令和2年度については「コロナ禍での取り組み」という困難な状況下で、回覧や参考資料の配布等いろいろと工夫されていると思います。

男女共同参画を地域に取り入れるためには、その重要性を理解した後、自らが動き出し、地域の人を巻き込んで課題解決に当たる姿勢が重要だと考えます。是非、他団体や他地域にも広めて頂きたいと思います。



本市では、地域の皆さんの協力を得ながら、様々な地域活動を通して、男女共同参画意識の浸透や定着化を目的に取り組んでいます。令和元年度・2年度は、第三地区コミュニティを対象に男女共同参画の視点の必要性について認識を深め、男女ともに地域活動に参画できるよう、講義とワークショップを行いました。

今回、この2年間の第三地区の取り組みの報告として「ハーモニー特別号」を作成しましたので、皆さんにお届けします。今後の第三地区の地域活動の参考にさせていただければ幸いです。

第三地区 男女共同参画地域づくり講座

講座には、連合自治会、単位自治会の会長・副会長、地区社協、防災指導員、婦人会、日赤、子供会の方々等を中心に、約30人の皆さんにご参加頂きました。

静岡県立大学国際関係学部の犬塚教授を講師にお招きし、前半は、男女共同参画の基礎講話・東日本大震災の避難所での実例等の講話を中心に、後半は避難所設営図上演習等、地域の防災活動と男女共同参画視点での防災活動を考えたワークショップを行いました。



男女共同参画こそ地域の活性剤！



犬塚教授

	開催日	講座内容
第1回	6月12日	【講義】 男女共同参画の基本的な知識や、なぜ地域でも男女共同参画の視点が必要とされているかを学びました。
第2回	7月3日	【講義・グループワーク】 男女共同参画視点での防災の取組、東日本大震災での性被害の実例等の講話。男女別のグループで防災対策を考え、多様な視点があることを学びました。
第3回	8月7日	【グループワーク】 (一部地区が) 実際に避難する体育館を想定した、避難所運営の図上シミュレーションを行いました。
第4回	9月20日	【発表・講評】 9/1に行われた総合防災訓練を経て、前回講座のシミュレーションを再検討、各グループで発表を行い、犬塚教授より講評を頂きました。

発行：沼津市 企画部 地域自治課 協働推進係
〒410-8601 沼津市御幸町16-1
TEL：055-934-4807
FAX：055-931-2606
Mail：kyodo@city.numazu.lg.jp
(令和3年3月発行)



第1回目（令和元年6月12日）

男女共同参画について、「そもそも何？」「なぜ必要なの？」を犬塚教授から講義頂き、男女別グループに分かれて「身近な生活の中でおかしいかもしれないこと」を検討・発表しました。

女性が感じていること

参加者意見

- ・男性は稼ぎ担当、女性は家事担当
- ・PTA役員（子育て）が女性ばかり
- ・職場の清掃・雑用を女性に任せる

共働き家庭における平日の家事時間について、女性は4～5時間に対して男性は30～40分であり、男性の積極的な家事育児の参加が必要です。

職場等で女性が活躍するためには、責任ある仕事を体験する機会を女性に与え、経験した女性達が情報を共有していくことが重要です。

男性が感じていること

参加者意見

- ・自治会長・役員がほとんどが男性
- ・消防団員が男性だけ
- ・会社の役職に男性が多い

人口減少、少子高齢化が進む現代では、性別で役割を分けるのではなく、個人の能力を判断し、役割を振り分けていくべきです。女性が今までいなかった分野に参画するためには、「これまでの男性社会のやり方」「長時間労働」等の組織・制度面を見直す必要があります。

第2回目（令和元年7月3日）

東日本大震災における経験や困難に男女差があったことを講座で学んだ後、実際の防災対策を男女別に分かれて考えてみました。男女で考えると、アイデアも色んな視点から出てきます。

通路を明るくした方がよい

子どもが遊んでもいい場所が必要

同じような家族構成の人をまとめて配置したほうがよい

トイレの数は国際基準の男1：女3の配置をした方がよい（生理やふき取り等時間がかかるため）

防犯ブザーを配布

間仕切りの計画を事前に作成した方がよい

在宅避難者の物資配布についても検討が必要

物資の配布は訓練が必要

避難所生活は体力が落ちるため、定期的な運動の時間が必要



犬塚先生のアドバイス

- ・間仕切りでプライバシーを確保するのが大切です。
- ・生理用品等の配布もあるため、物資担当は男女共に配置しましょう。
- ・炊き出しは重労働なので、特定の男女に集中しない体制を作りましょう。
- ・防災会議などは3割以上を女性にして、声を上げやすい体制にしましょう。

第3回目（令和元年8月7日）・第4回目（令和元年9月20日）

第3回目・第4回目の講座では、男女共同参画について、深まってきた知識を地域の避難所運営に活かします!!

「設営避難所運営に関するシミュレーション」と題して、第三中学校、体育館等を避難所として、施設の見取り図に縮尺を合わせた防災備品パネルを並べ、班ごとに避難所レイアウトを検討し、みんなで共有しました。

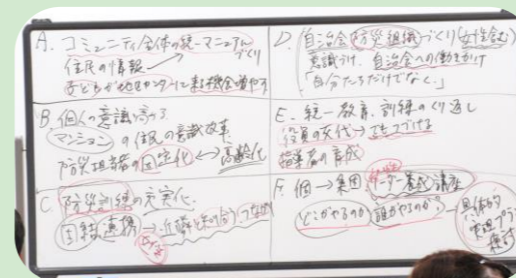


↑男女の意見を入れながら、安全で過ごしやすい避難所を考えていきます



↑実際の段ボール間仕切りや、簡易トイレがどんなものかチェック!

各班避難所レイアウトは工夫いっぱいでした!



↑最後は各地域の新たな課題、次に取り組みたい目標を設定しました。



発表の様子



参加者の感想

いろんな人の考えが聞けてよかった。柔らかな考えが必要と感じた。

避難所レイアウトの発想が男女で違った。多様性の大事さがわかって良かった。

川添会長（当時）のあいさつ

全4回の講座を終え、第三地区コミュニティは災害時用の備品や防犯対策の照明などを新たに購入しました! 今後も女性用テント等をそろえていく予定です。

今後も多様な意見を取り入れながら避難所運営マニュアルを発展させていきたいです!

